

講義コード	1116220003
講義名称	経営学A 03<春>
科目英文名	Business Management A
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	BUSA1000
単位数	2.0
時間割	春学期: 火曜日 3時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
三輪 卓己

授業形態	講義	実務経験のある教員による授業① 企業の人事スタッフ、ならびに組織人事の経営コンサルタントの実務経験を授業に反映させる。
------	----	--

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	小レポート/小テスト	ディスカッション(話し合い)	プレゼンテーション(発表)

講義・演習概要	経営学は企業などに代表される組織のマネジメントについて考える学問である。市場において競合企業と戦い、利益を得るためのマネジメントだけでなく、組織活動を通じて社会に貢献し、そこで働く(関与する)人の幸福を追求するマネジメントを考えることが大きな特徴である。現代社会ではほとんどの人が何らかの組織活動に参加しており、そこにおいて生活の基盤を築いている人も多い。経営学はそれらすべての人たちに有益な学問であるし、これからの社会を考えるうえでも重要な学問だと言える。 この講義では特に経営戦略とそのための組織づくりや組織変革に焦点を当てた議論を行う。
学習(到達)目標	1.経営学に関する基礎的な用語と理論を理解し説明できる。 2.具体的な企業の活動を経営学用語や理論を使って説明できる。 3.経営学の基礎用語や理論を企業の事例を使って説明できる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	企業組織とマネジメント 企業組織の活動の概要を学んだうえで、どのような経営資源が必要になるのか、またその資源を活かすためにどのようなマネジメントが必要になるのかを解説する。
第2回	経営戦略の内容とその意義 経営戦略の概略を学んだうえで、戦略に関わる二つの考え方(ポジショニングと資源ベースビュー)を比較し、それぞれの意義を考察する。
第3回	企業戦略 全社的な経営戦略について学ぶ。企業がどのような事業領域(ドメイン)を定め、市場や社会と関わるのが主なテーマとなる。
第4回	事業(競争戦略)戦略 企業が取り組む各事業において、競合他社とどう戦うかについて、コストリーダーシップ、差別化、集中などの戦略類型をあげながら解説する。
第5回	経営戦略のケーススタディ 実際の経営戦略の企業事例を見て、それをこれまで学んだ理論を使って考察する。
第6回	組織構造 経営目標や経営戦略を実現するための組織づくりについて、組織デザインの基本的考え方や、機能別組織や事業部制等の代表的な組織の形を見ることを通して学ぶ。
第7回	作業組織 具体的に業務を執行するための作業組織について、その基本的な考え方と、日本独特と言われている組織特性について学ぶ。
第8回	職務設計 組織の中で各個人が担当する職務の設計を通して、生産性やモチベーションを向上させるための理論について解説する。

第9回	企業活動の国際化 企業活動が国際的になるプロセスや、国際化した場合に現れる企業の課題や日本企業の問題点について解説する。
第10回	グローバル経営のケーススタディ 実際のグローバルの企業事例を見て、それをこれまで学んだ理論を使って考察する。
第11回	新製品開発とイノベーション 企業の持続的成長のために必要な新製品開発やイノベーションについて、各業界の特徴やそれを支えるマネジメントについて学ぶ。
第12回	経営理念と組織文化 経営理念、ならびに企業で働く人たちに共有された思考様式(文化)にはどのようなものがあり、どんな意義があるのかを学ぶ。
第13回	組織学習と知識創造 個人ではなく組織で学ぶということ、また組織的に新しい知識を創り出すことについて、そのプロセスや経営上の意義を考察する。
第14回	イノベーションのケーススタディ 実際のイノベーションの企業事例を見て、それをこれまで学んだ理論を使って考察する。
第15回	まとめ 全体を振り返り、ポイントの整理と今後に向けての展望を行う。

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	80%
その他	20%

成績評価の方法（コメント）	レポート(最終レポートと各回の小レポート)とケーススタディでの発表を中心に評価する。 それに授業中での発言や質問等による加点を行う。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	上林憲雄・奥林康司・團泰雄・開本浩矢・森田雅也・竹林明	経験から学ぶ経営学入門 第2版	大学オンライン販売	978-4641184435	有斐閣ブックス	

事前および事後学習の指示	<p>第1回～第5回 (事前学習)テキスト第1章、第2章、第4章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること</p> <p>第6回～第10回 (事前学習)テキスト第5章～第7章、第14章を読んで疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること</p> <p>第11回～第15回 (事前学習)講義の中で示す資料を見て疑問点等をまとめておくこと (事後学習)配付する講義資料を見直して授業のポイントを確認すること</p>
学習時間	事前学習時間：2時間 事後学習時間：2時間
キーワード	経営戦略, 組織構造, 組織戦略, グローバル経営, イノベーション

【社会人の方へ】事前にWebClassに公開する授業資料を見たくうえで参加してください。

講義コード	1116520004
講義名称	心理学A 04<春>
科目英文名	Psychology A
開講責任部署	社会学部 社会学科
代表ナンバリングコード	OPSY2400
単位数	2.0
時間割	春学期: 火曜日 3時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
中村 隆行

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	心理学は、人の心のしくみとはたらきを科学的に探究する学問として発展してきた。この授業では、これまで心理学が研究対象としてきたさまざまな領域で明らかにされた基礎的知見と研究成果を概説する。「心理学の研究法」「心のしくみと認知」「心のはたらきと行動」「個人と社会」「人の成長・発達」の各領域に分けて心理学の基礎理論を取り上げ、一般的包括的な内容構成に基づき講義を行う。学びの深化とともに、社会や教育現場で役立つ批判的・論理的な思考・判断能力の向上を目指す。
学習（到達）目標	・科学としての心理学の基礎理論および心理学研究上の基礎的知見・成果を体系的に理解している。 ・子どもの心の発達と発達要因について理解している。 ・日常生活におけるさまざまな心理社会的行動の特徴について、心理学理論と研究法を応用して探究し理解することができる。 ・日常生活における多様な情報に対して、心理学的観点から批判的・論理的に思考・判断して適切に行動することができる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション：心理学の基礎理論
第2回	心理学の歴史と領域
第3回	心理学の研究法
第4回	心のしくみと認知①：感覚と知覚
第5回	心のしくみと認知②：記憶
第6回	心のしくみと認知③：学習（条件づけ）
第7回	心のしくみと認知④：知能と思考
第8回	心のはたらきと行動①：動機づけ
第9回	心のはたらきと行動②：情動と感情
第10回	個人と社会①：人格・性格
第11回	個人と社会②：他者と集団
第12回	人の成長・発達と心理①：遺伝と環境
第13回	人の成長・発達と心理②：ライフサイクル
第14回	人の成長・発達と心理③：心の発達
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	
その他	100%

成績評価の方法（コメント）	小テストを10回行い、その中央値で評価する。
---------------	------------------------

参考文献	<ul style="list-style-type: none">・加藤伸司・山口利勝（編著） 『MINERVA 社会福祉士養成テキストブック21 心理学理論と心理的支援 第2版』 ミネルヴァ書房・長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦 『はじめて出会う心理学改訂版』 有斐閣アルマ
事前および事後学習の指示	<ul style="list-style-type: none">・毎回講義終了後に、その回の重要事項復習用として、確認問題を配布する。次回講義までに必ず確認問題を解いておくこと。・講義で学習したことが、実際の日常生活のどういったところと関連しているのか、注意して生活してみることを。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間

講義コード	16D4210000
講義名称	保険論 [2] <春>
科目英文名	Risk and Insurance
開講責任部署	経営学部 経営学科
代表ナンバリングコード	CMER3440
単位数	2.0
時間割	春学期: 火曜日 3 時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
岡田 太志

授業形態	講義	その他
		講義は対面式です。

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	第4次産業革命、AI革命とも呼称される社会的経済的潮流の下、保険業もその例外ではなく、世界的に一大変革期を迎え、これまで成功を約束してきたビジネスモデルの転換が強く迫られています。講義では、保険業の概要を確認した後、保険にかかわる多様な現象を理論的実証的に解説し、同時に、保険利用者がもつリスク保障ニーズの充足という観点を中心に据えながら、保険業の現代的課題について考究します。講義では、皆さんとともに、保険の利用可能性と保険業の将来像について考えます。
学習（到達）目標	学習（到達）目標は以下のとおりです。 （1）保険と保険制度の基礎・基本を確実に理解できる。 （2）保険業のビジネスモデルとその基本を理解できる。 （3）保険論や保険の知識だけでなくその知識を利活用するための論理的な思考力・判断力・表現力を修得できる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	1. イントロダクション (1) 保険とは－公的保険と私保険－ (2) リスクとは (3) リスク保障とは
第2回	2. 保険業の概要 (1) わが国損害保険業の概要 (2) わが国生命保険業の概要
第3回	3. 暮らしと保険
第4回	4. 保険の原理、原則
第5回	5. 現在の保険制度
第6回	6. 保険契約者の保護
第7回	7. 金融機関としての保険会社
第8回	8. 保険会社のビジネスモデルと経営問題
第9回	9. 生命保険商品
第10回	10. 損害保険商品、火災保険
第11回	11. 自動車保険
第12回	12. 新しい保険の登場
第13回	13. 社会保険
第14回	14. 年金

第15回	15. 生活設計と保険
------	-------------

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	90%
その他	10%

成績評価の方法（コメント）	2つのレポート（各45%、計90%）と授業内容の理解度を確保するために授業中に行う小レポート/小テスト（10%）を総合して成績評価します。レポートの評価基準は、桃山学院大学のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーに依り、「保険論の基礎・基本を確実に学び、知的深みを究め、結果として、保険論の知識だけでなく知識を活用するための論理的な思考力・判断力・表現力が養われているか否か」です。
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	家森信善（編著）	はじめて学ぶ保険のしくみ(第3版)	学生独自購入	4502333115	中央経済社	

参考文献	水島一也『現代保険経済 [第8版]』（千倉書房、2006）。 田村祐一郎/高尾厚/岡田太志編著『保険制度の新潮流』（千倉書房、2008）。 高尾厚『保険構造論』（千倉書房、1991）。 他の参考文献については、適宜授業の中で指示します。 資料、レジュメを適宜掲出します。
事前および事後学習の指示	保険論は極めて学際的な学問分野です。そのため、経済学、統計学、経営学、会計学、民法、商法といった科目の基本を積極的に学習していかれることを強くお勧めします。事前学習としては、教科書を参考に予習し（60分程度）、事後学習としては、教科書と資料を参考に復習してください（60分程度）。
学習時間	事前学習時間：20時間 事後学習時間：20時間
キーワード	保険 / 生命保険 / 損害保険 / 第3分野の保険 / リスク / リスク保障 / 社会保険 / 年金

講義コード	17E0520000
講義名称	英語の文法A <春>
科目英文名	English Grammar A
開講責任部署	国際教養学部 英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	LING3410
単位数	2.0
時間割	春学期: 火曜日 3時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
森下 裕三

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--	----------------------

講義・演習概要	この授業では、英語の文法を、語と語の「つながり」に注目して考えます。どの語がどの語に依存しているのかという視点から、英語の文法構造を分析します。授業では、必要に応じて日本語など他言語との比較もおこないながら、英語の文法がどのような特徴をもつのかを具体例を通して考察します。専門用語を暗記することや、基礎的な英文法の復習を目的とはせず、英語の文がどのような原理で成り立っているのかを、自分の力で説明できるようになることを目指します。
学習（到達）目標	この授業を通して、受講者は次のことができるようになることを目標とします。 1. 英語の文を、語と語の依存関係に注目して分析できるようになる 2. 主語・動詞・目的語といった文法的役割を、語の位置や意味だけでなく、文全体の構造との関係から説明できるようになる 3. 英語と日本語の文法構造の違いを、依存関係の観点から説明できるようになる 4. 英語の文法について、正しいか間違っているかで判断するのではなく、なぜその形が選ばれているのかを説明できるようになる

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション：暗記ではない英語の文法 - この授業で扱う「文法」とは何か - 文の構造を依存関係からみる理由
第2回	語と語のつながり：依存関係の基本 - 主要部と依存する語 - 文は語のネットワーク
第3回	動詞を中心とした文の構造 - 動詞が文の骨格をつくる - 何がどこに依存しているか
第4回	主語・目的語をどう捉えるか - 形ではなく関係としての主語・目的語 - 語順との関係
第5回	修飾関係①：形容詞・副詞の働き - 何を修飾しているのか - 修飾の方向性
第6回	修飾関係②：前置詞句の依存構造 - 前置詞は何に依存するか - 日本語との比較
第7回	文法関係と意味役割 - 主語 = 動作主とは限らない - 文法と意味のズレ

第8回	語順と依存構造 - なぜ英語はこの語順なのか - 語順の自由度の違い
第9回	補文と節の依存関係 - that節・to不定詞 - 文中の文をどう捉えるか
第10回	関係節の構造を依存関係で見る - 省略と依存 - 何がどこにかかっているか
第11回	受動文の構造 - 語順が変わると何がかわるか - 依存関係はどう変化するか
第12回	否定と依存構造 - notは何に依存するか - 否定の範囲
第13回	文法構造と談話 - 情報の与え方と語順 - 依存構造と談話的選択
第14回	英語文法と日本語文法の比較 - 依存関係の違い - 語順・省略・助詞
第15回	英語の文法を依存関係で説明する - 複数例の総合分析 - 英語文法の見え方の変化

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	50%
レポート	
その他	50%

成績評価の方法（コメント）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 初回を除く毎回の授業で、その日の授業内容の理解度を確認するために、実際に文法的な分析してもらい小テストを実施します。 2. 初回を除く毎回の授業で、授業で扱った概念や用語について、その日の授業内容の理解度を確認するための授業課題が与えられます。
---------------	--

参考文献	Osborne, Timothy (2019) A Dependency Grammar of English: An introduction and beyond. John Benjamins Publishing Company. 神尾昭雄・高見健一 (1998)『談話と情報構造』, 研究社.
事前および事後学習の指示	授業内容はすべて録画して、翌日までに WebClass で視聴できるように配信されます。授業で使ったスライドについても、同じように WebClass で配信されます。これらの資料を十分に活用して、授業課題に取り組んでください。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間

講義コード	17F7020000
講義名称	映像メディア論A <春>
科目英文名	Visual Media A
開講責任部署	国際教養学部 英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	FMED2420
単位数	2.0
時間割	春学期: 火曜日 3時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
森田 良成

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	「異文化」が描かれた多様な映像作品（ドキュメンタリー、民族誌映画、広告、広報など）を取り上げる。それらの作品には、われわれにとっては非日常的であるが「彼ら」にとっては日常のものにすぎない風景や、われわれが想像するものとは違った歴史や理想が描かれている。またそこには、異文化を理解しようとする実践の過程そのものが記録されている。 映像メディアは、異文化をどのように描くことができるのか、異文化に対するより深い理解にどのように貢献することができるのか。活字など他のメディアとは異なるどのような特性があるのか。また映像メディアが何かを描こうとする際に、政治的、経済的な利害や思惑がどのように関係してくるのか。文化人類学の議論を紹介しつつ、異文化とのコミュニケーションのあり方について理解を深めながら、映像メディアの可能性と危険性を学ぶ。
学習（到達）目標	映像メディアを多角的に検討し、その特性を学ぶ。 映像メディアが「異文化」をどのように描きうるのかについて理解を深める。

講義・演習計画

回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	広告映像から見る消費と暮らし(1)
第3回	広告映像から見る消費と暮らし(2)
第4回	広告映像から見る消費と暮らし(3)
第5回	映画に描かれる宗教生活(1)
第6回	映画に描かれる宗教生活(2)
第7回	映画に描かれる宗教生活(3)
第8回	選挙映像から見るナショナリズム(1)
第9回	選挙映像から見るナショナリズム(2)
第10回	選挙映像から見るナショナリズム(3)
第11回	ドキュメンタリー映像から見る社会と他者(1)
第12回	ドキュメンタリー映像から見る社会と他者(2)
第13回	ドキュメンタリー映像から見る社会と他者(3)
第14回	ドキュメンタリー映像から見る社会と他者(4)
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	60%
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	<p>[その他40%] 平常点を評価するために、小レポート等を複数回実施する。提出回数だけではなく、記述内容、すなわち「授業内容を理解したうえで自分の考えを論理的に記述できるかどうか」を評価する。 *受講者数によるが、一定の条件のもとで映像を撮影して提出してもらい、それをもとに議論することを予定している（技術的に難しくはない、簡単な撮影）。</p> <p>[レポート60%] 1000字程度を予定。小レポートと同じく、「授業内容を理解したうえで自分の考えを論理的に記述できるかどうか」を評価する。 出題・作文の条件・評価基準などについて、授業内で詳しく説明する。</p>
---------------	--

参考文献	村尾静二、久保正敏、箭内匡・編（2014） 『映像人類学(シネ・アンソロポロジー)―人類学の新たな実践へ』せりか書房 ほか、授業において指示する。
事前および事後学習の指示	講義中に紹介する文献資料を読み、資料映像を視聴すること。 課題に積極的に取り組むこと。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間

講義コード	1N06320000
講義名称	知的財産法A <春>
科目英文名	Intellectual Property Law A
開講責任部署	法学部 法律学科
代表ナンバリングコード	0LAW3450
単位数	2.0
時間割	春学期: 火曜日 3時限
講義開講時期	春学期

担当教員

氏名
関堂 幸輔

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート
---------------	---

講義・演習概要	<p>人の知的活動に係る権利利益を保護し、行為を規制する法であるところの知的財産法は、今日の高度情報化社会においてとりわけ重要な制度です。知的財産法制は、わが国においては古く19世紀末から存しますが、現在に至るまで社会経済の変遷とともに大きな変貌を遂げており、また常に新しい問題を生じさせるものもあります。</p> <p>この授業と「知的財産法B」では、あくまで法学の観点から知的財産法制の論点を取り上げて講義します。特にこの「知的財産法A」は、「創作保護」に係る法令（すなわち特許法、実用新案法、意匠法および著作権法）を中心に扱います。</p>
学習（到達）目標	<p>上記「講義概要」に掲げた現代の問題を各自において認識し、それぞれに考察することが目標です。すなわち、一概に何を覚えればよいというものでもなく、画一的な答えを求められるものでもありません（もし「学習目標」としてそのようなものが求められているのだとすれば、この講義では無意味なことです）。そもそも最先端の技術やサービスが次々に提供される高度情報化社会にあって絶対的に「正しい」ことなどなく、現在常識として行われていることが数年後に覆される可能性さえあるのです。それを理解して関連法制の問題を意識することこそ、この講義の学習目標であると言えます。</p> <p>受講生に最低限要求されることは、知的財産に係る法令がどうなっているかを単に「知る」のではなく、法の趣旨・解釈・運用等について「考察」し、時に「疑う」ことなのだとして認識することです。</p>

講義・演習計画

回	内容
第1回	知的財産法総論①：知的財産の意義・性質
第2回	知的財産法総論②：法制度の趣旨、国際的關係
第3回	特許法①：特許制度の意義、特許要件等
第4回	特許法②：特許を受ける権利、特許権
第5回	特許法③：実施権とライセンス契約
第6回	特許法④：特許権侵害
第7回	実用新案法の概要
第8回	意匠法①：意匠制度の意義、意匠登録要件等
第9回	意匠法②：意匠特有の制度、他の法制との関連
第10回	著作権法①：著作物の意義等
第11回	著作権法②：著作者の権利の内容
第12回	著作権法③：著作権に関連する権利（著作隣接権等）
第13回	著作権法④：著作権等の制限
第14回	著作権法⑤：著作権等の侵害

第15回	まとめ
------	-----

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	60%
レポート	
その他	40%

成績評価の方法 （コメント）	<p>基本的には学期末に行う試験によって判定します。試験の方法等については講義の中で適宜告知をします。</p> <p>また試験とは別に、毎回の授業でオンライン・コメントの入力を求めます。このコメントの内容を平常点として加算します。（上記「学習目標」にある「最低限の要求」をクリアした場合が合格となります。）</p>
-------------------	---

参考文献	講義資料は担当者のウェブ（ http://www.sekidou.com/ ）に掲載してあります。また補助的にYouTube（ https://youtube.com/@sekikos ）に掲載する講義の動画を使用しますので各自参照してください。なお法学部の学生であれば当然ですが、最新の法令集を必携してください。
事前および事後学習の指示	本科目のような社会科学系にあっては、特定時期に特定の準備をすればよいというものでもありません。したがって、事前学習および事後学習に要する時間は各受講生によって異なります（標準的には、各授業回の内容について事前・事後それぞれ1時間から数時間を費やして理解を深めることが望ましい）。日々社会ないし経済で起こる出来事に注視し、そこに内在する問題を認識することが肝要ですから、そうした感覚をもってさまざまな事象を観察するよう心がけて下さい。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	法的財産 特許 発明 意匠 著作物 情報 メディア コンテンツ